

<熊本支部例会事前抄録>

日時：2018年10月23日(火)19:30～

会場：添島歯科クリニック研修室

- 一般講演抄録 1 -

多数歯欠損症例に対し Locator を用いた Implant Overdenture の一症例

八田 知之 はった歯科小児歯科クリニック

〒860-0079 熊本県熊本市西区上熊本2丁目18-1

略歴

- 2004年 熊本大学医学部附属病院歯科口腔外科研修医
- 2006年 国保水俣市立総合医療センター歯科口腔外科勤務
- 2008年 医療法人社団徳治会吉永歯科医院勤務
- 2011年 医療法人社団徳治会長野歯科医院勤務
- 2017年 はった歯科小児歯科クリニック開院

所属団体

- 日本臨床歯科医学会 熊本支部
- 日本口腔インプラント学会専修医（第1112号）
- 福岡口腔インプラント研究会
- 日本放射線学会

抄録

超高齢社会になり、インプラント治療においても新たに様々な問題や制約が生まれてくる可能性がある。そのため安心安全な治療方法である上に、患者の高齢化や自立度の経時的変化を見据えた設計やメンテナンスを行っていく必要がある。

今回、多数歯欠損症例に対し、残存歯へのクラスプ等による過重負担を強いることなく、Locator を用いたインプラントオーバーデンチャー（IOD）を製作し、良好な結果を得たため報告する。

患者は71歳女性。2017年11月に上下顎局部床義歯の新製を希望し来院。全顎的に中等度から重度の歯周疾患を認めた。義歯の製作にあたり、幾つかの治療計画の中から患者はIODを希望した。上顎には、Straumann BLT 4.1×10ミリを左右大臼歯部に1本ずつ、小白歯部に1ずつ埋入。下顎は、同社 TL Standard Plus 4.1×8ミリを大臼歯部に左右1本ずつ埋入した。約12週の免荷期間後にLocatorを装着し、IODを完成した。将来的な天然歯の喪失に伴う義歯床の変化や、頸堤吸収による適合不良、人工歯の咬耗などの経年変化に対し、早期の治療介入により大きな治療介入を可及的に少なくできると考える。本症例における利益相反はなし。